

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570200521		
法人名	社会福祉法人 むべの里		
事業所名	グループホーム芳玉園		
所在地	宇部市大字東須江丸田3454-2		
自己評価作成日	平成24年10月2日	評価結果市町受理日	平成25年3月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成24年10月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の希望を把握し、家族にこれまでの生活感を聞き、要望もと入れ、他機関との連携を図りながら、入居者一人ひとりを深く理解し「出来ること」維持するように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「思いやり、目配り、気配り」という介護目標を掲げ、利用者の生活感のある暮らしを大切にしたい、その人らしい生き方を支援しておられます。職員間のコミュニケーションが良く、職員一人ひとりが主体性を持ってケアにあたっておられ、日常のケアの中で互いに助言、指導し合ってサービスの質の向上に努めておられます。「母の日エピソード」などの趣向を凝らした独自のアンケートや日記づくりで利用者の昔の思い出を掘り起こしたり、今食べたいものや行きたい所、したいことなど、利用者の思いや希望を把握するよう工夫しておられる他、面会簿に家族の一言を気軽に記入できるようにして、思いに添った生活の支援ができるよう工夫され、利用者の穏やかでゆったりとした生活につなげておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	園独自に理念を考え、毎日唱和して共有を図っている	地域密着型サービスの意義をふまえた理念をつくり、職員一人ひとりが利用者の思いの把握に努め、言葉かけに工夫するなど、理念に基づいた介護目標を共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方への挨拶を心掛けている	自治会に加入し、職員は地域の清掃作業に参加している。近隣の人と散歩のときなどに声をかけ合う機会も多く、野菜や花の差し入れなどがあり、日常的に交流している。高校生の職場体験の受入れや幼稚園児との触れ合いがある他、デイサービス事業所と一緒に手芸や日本舞踊などのボランティアと交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	園で掲示板をフェンスに付け地域の方々に見ていただいている		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	園内の会議で話し合っている	月1回の職員会議で、評価の意義について説明し項目ごとに検討している。自己評価は職員からの意見を聞き、管理者がまとめている。外部評価の課題から担当者が支援計画づくりができるように取り組み始めているが、全職員が評価の意義を理解するまでには至っていない。	・評価の意義の理解と職員全員での自己評価への取り組み
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	園内の玄関先にも掲示し、ご家族とも話し合い、サービス向上に努めている	年6回開催し、状況報告、行事報告、研修報告、外部評価への取組状況等について報告し、危険個所の点検や看取りについて意見交換している。家族や利用者と出席者での茶話会の時間を設けて事業所の理解を得られるように工夫している。法人内5か所のグループホームの合同運営推進会議を行い、運営推進会議の在り方について話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護受給者の方も居られ、密に連絡は取り合い、その方の看取りも経験した	市担当課に運営推進会議時や、電話や直接出くなどして、事業所の状況を報告すると共に、介護保険における不明点等について相談し、情報を得るなど協力関係を築いている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入所されて間がない方は、帰宅願望が強く、玄関や窓から出ようとされるが、工夫し身体拘束はしていない。	マニュアルがあり、全職員が身体拘束について正しく理解して、抑制や拘束のないケアに努めている。日中は玄関の施錠はしていない。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	話し合い、防止に努めている		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、皆と共有するよう、努めている		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行っている		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にお話を聞き、反映させている	苦情相談窓口や外部機関を明示し、処理の手続きを定めている。利用料支払時や電話、運営推進会議への参加時等で、意見や要望などを聞いている。面会簿に意見や要望を書く欄を設け、気軽に意見や要望が書けるよう工夫しており、その内容を運営に反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案を聞き、皆で話し合い、反映させている	月1回の職員会議やミーティングで、職員からの意見や提案を聞く機会を設け、管理者は日頃から何でも話せる雰囲気をつくっている。物品購入や足台の設置、テーブルの高さ等の意見や提案を運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休も考え、職場環境・条件の整備に努めている		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に対応して進めている	外部研修は情報を提供し、法人を通して受講できるよう配慮している。法人内の介護実習に全職員が参加し、日常の実践の中で職員が互いに助言、指導しあってケアの質の向上に取り組むなど、働きながら学んでいる。内部研修としては実施していない。	・内部研修の充実
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	合同交流会や研修会に参加してもらっている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人やご家族の話を親身になって傾聴している		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	必ず要望等聞くよう努めている		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	担当を決め、細やかな支援に努めている		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の度にお話をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や電話連絡はいつでも大丈夫と伝え、馴染みの関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親戚、友人、幼なじみ、洋裁をしていた時の弟子等の馴染みの人の訪問、暑中見舞いや年賀状などの交換、家族の協力を得ての墓参りや法事、盆や正月の外泊、ドライブ、外食など馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援をしている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	定期的に席替えを行ったりと、努めている		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	皆で考え、支援に努めている	センター方式のシートを活用し、家族からの情報や生活歴を把握している。独自のアンケート用紙や日記づくりで、食べたいもの、したいこと、行きたいところなど、利用者の希望や意向を把握するよう工夫している。困難な場合は行動や表情から本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族にセンター方式記入をお願いしこれまでの事を理解するよう、努めている		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録を必ず読み、皆で共有し現状把握に、努めている		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会の度にお話をしている	計画作成担当者と利用者の担当職員を中心に、ケアカンファレンス開催し、利用者の意見、家族の要望、看護師の意見等を参考にして、介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを行い、6ヶ月毎に計画の見直しをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	会議でも、話し合い努めている		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医を作るなど、努めている		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアとの交流等努めている		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	努めている	事業所の協力医療機関を主治医としており、2週間に1度、往診がある。皮膚科は月に1回、歯科は月に2回の往診があり、その他は家族の協力を得て受診の支援をしている。受診後はかかりつけ医や看護師、家族と情報を共有して適切な医療が受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師による月2か回の健康チェックを行い、それ以外は診療所・デイサービスの看護師に相談している		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	取り組んでいる	重度化した場合は、他施設への移行も含めて事業所で出来ることを家族に説明している。実際に重度化した場合には、家族、医師、職員等関係者が方針を共有して、チームで支援に取り組んでいる。職員は個別のケアの方法を細かく検討しながら、過去に看取りの経験をしている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	参考書を購入し、皆で共有している	マニュアルがあり、事故やヒヤリハット発生時は、その都度話し合い予防方法を検討し、全職員で報告書の内容を確認し、共有している。救急救命講習の受講の計画があるが、全職員を対象とした応急手当や初期対応の訓練の実施までには至っていない。	・応急手当や初期対応の定期的訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	イメージトレーニングを常に行い、努めている	年1回、消防署の協力を得て、併設のデイサービスと合同で避難訓練や通報訓練を実施している。事業所内では、月1回、昼夜想定避難訓練を利用者と一緒に実施している。合同訓練時に運営推進会議のメンバーの参加を得ている。地域の協力体制の構築までには至っていない。	・地域との協力体制の構築
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人理解度の違いがあるので、それにあった声かけや対応している	人格の尊重やプライバシーを損ねない言葉づかいや対応について職員は理解している。管理者は日々の関わりの中で気になることがあればその都度指導して、職員の意識の向上に努めている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	努めている		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人ペースが違うので、それにあった、対応・支援をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	努めている		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、台拭き、茶碗拭き等出来ることをしていただいている	昼食と夕食は法人の配食を利用している。朝食と月2回の昼食・夕食は事業所で調理している。利用者は盛り付けや、食器洗い、台拭きなど出来ることを職員と一緒にやっている。旬の食材を使い、利用者に合わせて刻みやとろみ付をするなど工夫している。誕生会のケーキやおやつ(ホットケーキ、お好み焼き、ゼリー等)を利用者と職員と一緒に作ったり、行事食や家族との外食を楽しむなど、食事を楽しむことができる支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士が考え、量は職員が調整している		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食簿口腔ケアを行っている。訪問歯科を利用し、状態観察・治療を行っている		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を把握し、声かけを行っている	排泄チェック表を活用して利用者一人ひとりのパターンを確認し、声かけや誘導をして、一人ひとりに合った排泄の支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	午後からの入浴になってはいるが、努めている	15時から17時を入浴時間とし、本人の状態により、清拭、シャワー浴、足浴の支援をしている。2日に1回の入浴を基本としているが、希望すれば毎日入浴できる。好みの入浴剤を使ったりゆず湯などで入浴を楽しむ工夫をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	努めている		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	皆が共有している		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	努めている	習字、ぬり絵、貼り絵(壁面を飾る季節毎のオブジェ作り)、音楽体操、テレビ視聴、デイサービス利用者との交流やティータイムを楽しむ他、雑巾縫い、洗濯物干し・たたみ、自室のモップがけ、食器洗いなど、一人ひとりのしたいこと、できることをして、張り合いのある生活ができるよう支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	努めている	利用者のその日の希望や体調に合わせて、近隣の散歩や地藏参り、ゴミだし、日用品などの買い物、ドライブに出かけている。家族の協力を得ての外出や外泊等、出かけられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば、支援したい		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	努めている		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月の壁画・カレンダー作りで季節感を努めている	共用空間の壁には月毎に変わる貼り絵のオブジェやカレンダー、利用者の書いた習字の作品、行事の写真が飾ってある。コーナーにはテレビを配置し、利用者同士がゆっくりくつろげるソファが三方に置いてあり、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの位置や席替えをしたり工夫している		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	努めている	ベッド、テレビ、小ダンス、衣装がけ、簾イスなど利用者の使い慣れたものや好みのもの持ち込み、家族の写真や絵、手づくりの作品などを飾って、利用者が安心して過ごせるよう配慮している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	声かけは行っているが、本人の意思を配慮している		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム芳玉園

作成日：平成 25 年 3 月 26 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	14	内部研修の充実	グループホーム会議で各自が勉強成果を発表する	全職・外部研修に参加出来る勤務体制づくり、認知症介護に関する資料を読んでの発表、防災に関しての定期訓練実施	
2	36	地域との協力体制の構築	馴染みの顔になれるように	各自1回は地域の行事に参加する、駅の清掃を入居者と継続して行なう	
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。